

## 審査の結果の要旨

氏名 李 黎

本研究は中国の総合病院における安全でない注射行動と針刺し事故の実態を明らかにするため、横断研究および後ろ向き調査を行った。さらに、針刺し事故対策について、医療従事者を対象とし、教育介入を試みたものであり、下記の結果を得ている。

1. 地理的特徴、経済状況などの要因を考慮し、中国の異なる地域を代表する山東省、雲南省と新疆自治区を選び、注射の安全性のアンケート調査を実施した。その結果、平均点数は山東、雲南、新疆の順に低くなったが、全般的では、3地域ともに総合病院従事者における注射の安全性に関する知識が不十分なことが示唆された。
2. 安全でない注射行動では、「安全でない注射の実施」、「ディスポ注射器の正しくない処分」とともにその割合は0~3.5%であり、地域間で有意差はなかった。「針刺し事故の経験有り」の割合は84.0%~93.2%であり、地域間の差も見られなかった。3地域の総合病院における安全でない注射行動の内容はほぼ一致していた。針刺し事故経験者の割合は3地域いずれも80%を超え、注射の安全性の3要素の中で最も大きな問題であった。
3. 総合病院において針刺し事故の実態を解明するため、山東省の4病院を抽出し、70関連部門の職員1226名について調査を行った。4病院合計で、年間針刺し事故発生人数は375名で、対象者の31%を占めた。針刺し事故件数は年間538件、一人当たり事故件数は平均0.44件、100床あたり事故件数は平均46.7件であり、事故の発生頻度は欧米や日本の病院とほぼ同じレベルであった。
4. 対象病院において、針刺し事故の特徴が以下に示唆された。①最も針刺し事故の多

い職種は助産師と麻酔医であるが、検査技師と事務職もリスクの高い集団であった。

②事故原因器材では、翼状針による事故が最も多かった。③事故発生状況では、器材使用後の分解・消毒・廃棄等の際の事故が最も多く、対象病院における使用済みディスポ注射器に関する処分手順が影響していると考えられた。

5. 針刺し事故防止の対策について、米国の「針刺し事故防止の CDC ガイドライン」に基づき、中国語版を作成し、集中講義とガイドライン配布の組み合わせの方法で教育介入を試みた。講義前後の知識項目の正解率では、講義前の平均得点は 9.4、講義後は 12.8 であり、正解率は有意に上昇した。針刺し事故の事後処置について、講義前後で有意差が出ており、参加者の意識が高まったことが示された。

介入前 7 週間および介入後 7 週間で、3 病院あわせて 47 件の針刺し事故が報告され、関連部門職員数をもとに針刺し事故発生率を計算し、介入群の介入前 3.95%、介入後 1.42%、対照群の介入前 2.52%、介入後 2.15%であった。検定の結果、対照群では介入前後で事故発生率に差はなく、介入群では介入後で事故発生率が有意に減少していた。

以上、本研究は中国の総合病院における安全でない注射行動および針刺し事故の実態を明らかにした。さらに、中国を含む途上国の経済状況を考慮するため、コストが低い教育手法を選び、集中講義とガイドライン配布の組み合わせの方法で教育介入を実施した初めての研究である。本研究の結果により、このような介入方法は針刺し事故の防止に対して、経済的、かつ効果的な教育介入方法の一手段になると考えられ、今後の病院管理に大きく貢献する。よって学位の授与に値するものと考えられる。